

昨年4月に実施された全国学力調査について、文科省から出された報告書をもとに立科町教育委員会では、立科町の児童生徒の学力、小・中学校及び教育委員会の取り組み、そして「立科教育」のあり方、について検討と分析を重ね、下記のとおり考察致しました。

全国学力調査の実施については様々な見解があり、また、結果についても自治体・学校別の順位ばかりが議論の対象になりますが、立科町教育委員会は、この分析結果を、教師の授業改善、児童生徒の生活実態の見直し、今後の学校教育活動及び教育行政に生かし、「立科教育」の更なる充実に活かしてまいりたいと考えています。児童生徒の「生きる力」は、学校、家庭、地域が一体になって育てていくものです。今回の分析にご家庭、地域でも興味・関心をお寄せいただき、ご提言等があれば賜りたいと考えています。

## 1. 全国学力テストにおける町内児童生徒の結果について

### 小学6年

国語A・国語B・算数A・算数Bともに、国及び県の平均を上回っています。  
(Aは知識、Bは活用領域を表します。)

#### 学校での分析

今年の学年は授業で「考え合う」「知恵を寄せ合う」といった学習活動に力を入れてきた。他学年もこの方法を取り入れて知識注入型の一斉授業からの脱却が必要である。立科教育の核となっている算数数学の連携授業が機能して高学年で伸びる授業につながっている。また、今年の学年は、例年だと国県に比べてはるかに低かった家庭での復習ができています。(国より10%程度多い)

### 中学3年

国語A・国語B・数学A・数学Bともに、国及び県の平均をやや下回っています。

#### 学校での分析

国語も数学もあと1～3問正解となれば平均に到達する。国語については、授業中に自分の考えを、根拠を明確にして表現する力を付けさせる。数学については、学ぶ意義を見出せない生徒も多いので、必要性を感じられるような動機づけを工夫する。また、自分の考えをまとめ、グループで意見交換するような場面を多く設定していく。

## 2. 生活実態について全国や県との比較結果

### 小学6年

スマホ等の利用時間は国県と比べても少なく、良好な生活習慣です。学校の分析と同じく、授業中での話し合いで相手の意見を聞く、自分の意見を述べるという活動をしたと思っている児童の割合が国県に比べて20%も多く、また、そう思っている児童ほど学習到達度が高くなっています。公式やきまりを習うときそのわけを理解するようにしている児童は到達度が高い傾向にあります。(1図参照)